



活動成果発表

災害対策・復興まちづくり部門



活動報告



➔ 2013年9月14日～16日

- * 岩手県大船渡市山岸団地仮設住宅
- * 岩手県陸前高田市復興仮設店舗ヤルキタウン



東京よりボランティア40名、地元住民総勢20名にて、キッズハウス製作

現地視察及び地元住民との交流会開催



➔ 2013年3月14日～16日

- * 宮城県石巻市石巻東保育園

東京よりボランティア30名にて石巻東保育園の遊具を製作

世田谷区では定期的に災害時に役立つ木工ワークショップなどを開催



被災地支援の様子



キッズハウス完成!



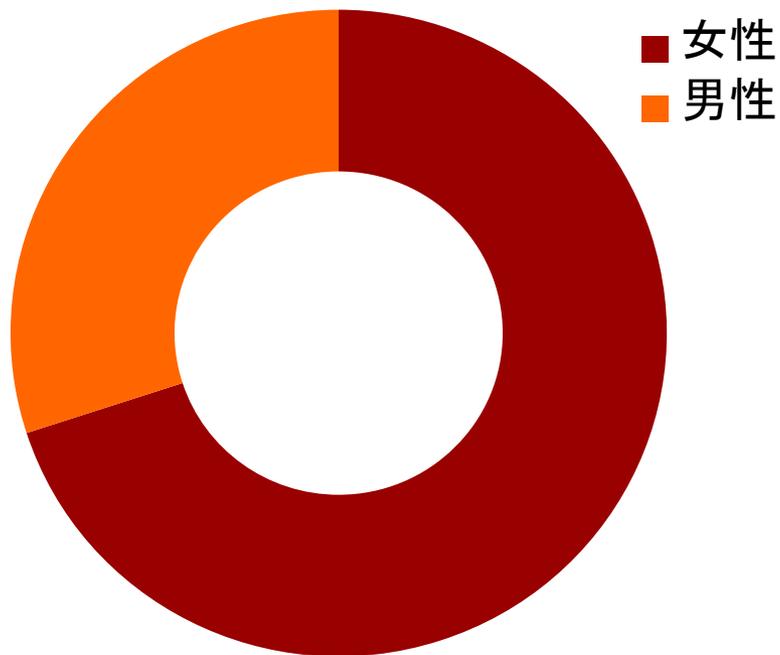
CRAFT
MAN
setagaya



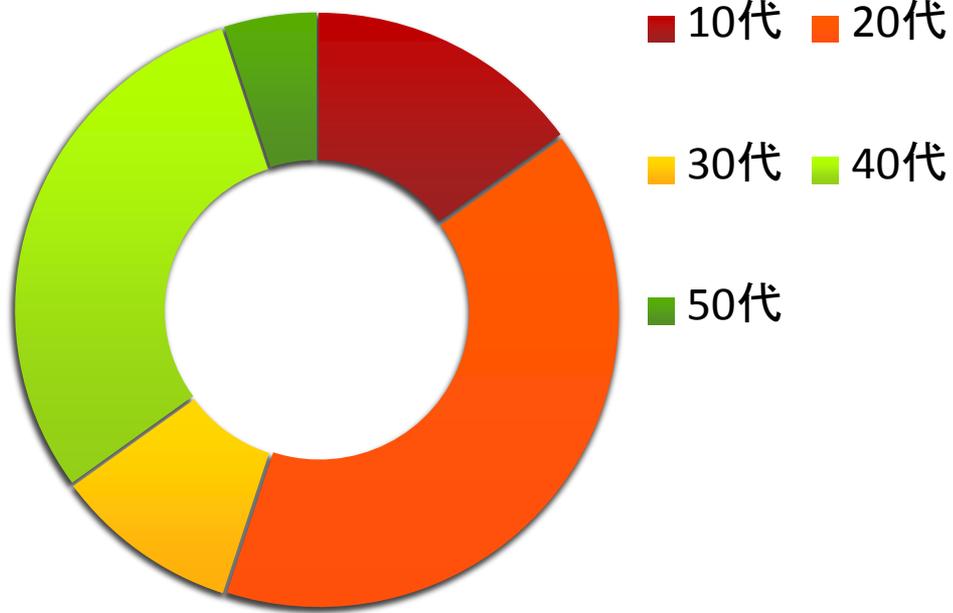
2013/9/20 9:56

参加者の割合

男女比



年代



参加者の声

Q ツアーに参加した感想

- * ものづくりを主体とした他にはない内容だったので2年以上経ってからの新しい支援の形で良かったと思う。
- * 同じ意思を持つ初対面の仲間達と遊具を創るという目的を共有できたこと。
- * ただボランティアだけではなく地元の人との交流や視察ができて有意義な時間でした。
- * 子供達の笑顔が見れてとても嬉しかった
- * 木工という形に残るものを皆で団結して作り達成感を得た。
- * 交流を楽しみながらDIYの技術を学べたり、ボランティア自体のイメージが変わった。

Q 被災地訪問の経験を自分の地域の防災にどのように役立てたら良いか？

- * 身近な人と言葉での交流、コミュニケーションを増やしていくこと。
- * 災害は起きることを前提に準備や訓練をし、防災への意識を高めておく。
- * 自分たちの命を最優先に考え行動する。
- * まずは己の備えを確かなものとして、有事の際には支援団体とのFace to faceの繋がりを築くため自ら率先してパイプ役になる。
- * 山岸では婦人部の方々が中心となり食事作りなどを行ったと聞いたので、災害時に様々な活動のリーダーを決めておき、全家庭に周知されたら安心なのではと思った。
- * 電動工具を使うことは、復興時にとても役に立つと思ったし普段から慣れ親しむと良い。

世田谷区への還元

➔ 提言その一 備えあれば憂いなし

災害復興時に木工の技術やDIYの知識が役立つことは明らかでありそれをいかに活用し、多くの世田谷区民に広めていくか？



- * 地域のコミュニティや小学校などに木工支援ベースの設置
- * 現在下北沢復興商店街などの事務所の空きスペースに自由に持ち出しのできる電動工具を常備。常時点検を行う。
- * 復興時に役立つ木工技術や電動工具の使い方のWS開催。また様々な団体に働きかけて繋がりを持ちイベントなどで周知してもらう活動を行う。

世田谷区への還元

➔ 提言その二 有事の際率先してリーダーになる

震災時大船渡の山岸団地では、地域の婦人部部長と部員が率先して食事の切り盛り一切を取り仕切ったことから、食事に関する混乱は全く起きなかったとのこと。普段から地域の人と人のコミュニケーションが特に密な地域であったことが幸いした。



しかし・・・

世田谷区も含め都心では近所とのFace to faceの関わりが希薄であること、必ずしも有事の際に自宅付近にいるとは限らないことから、見ず知らずの人達と災害発生時共に過ごすことの確立が高いと考えられる。咄嗟の際に自らが率先してリーダーシップを取る事が重要となる。

世田谷区への還元

➔ 大枠を決めて任せる！丸投げ方式

人が集まればその場にふさわしいバックグラウンドを持つ人物が必ずいるはず。その人を選出し役割事にリーダーを選出していく。

その際、各リーダーの自主性を尊重し、プロセスは問わないことが大切

人の為に役立ちたいという目的は一つであり、例えにわかチームであったとしても一人のリーダーが指揮を取る事で、絆を深め団結していくことは今回のボランティアツアーの経験から得たこと。

日常のちょっとした集まりや、関わりの中でも自然と場のファシリテーターが生まれるはず。率先してそのポジションに付くことのできる人の育成及び、自身が日頃から意識することが重要であると考えます。